



# News Letter

2026/3

日本医療安全学会事務局

〒431-319 静岡県浜松市中央区半田山 1 丁目 20-1 浜松医科大学総合人間科学基礎研究棟 306 号室

<http://www.jpscs.org/> Email: [office@jpscs.org](mailto:office@jpscs.org) TEL:053-433-3812

## 目次

- 01 目次  
    <第 11 回総会大会長報告>
- 02 代表総会長 安田 あゆ子
- 03 共同総会長 近本 亮
- 04 共同総会長 田仲 浩平
- 05 編集後記

## 第 11 回総会大会長報告

第 11 回日本医療安全学会学術総会 代表総会長  
独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター 外科・医療安全管理部長  
安田 あゆ子

2025 年 3 月 15 日（土）16 日（日）、名古屋駅に近いウインクあいち（愛知産業労働センター）にて第 11 回日本医療安全学会学術総会が開催されました。総参加者数 547 名、職種としては医師、看護師だけでなく、薬剤師、臨床工学技士などの医療職、診療情報管理士、事務職、弁護士、メーカー、一般市民など安全な医療に関わるステークホルダーが集い、様々な議論が会場のあちこちでなされました。激動する医療提供・社会環境において、医療安全をさらに促進するために、世界各地で起こる事象の状況や背景を広く把握し、身近な地域の安全な医療実践に生かしてほしいと考え、今回のテーマは『Think globally, Act locally.ー改善しつづける安全な医療システムへ』としました。

学術集会では、13 のメイン講演、10 のシンポジウム、2 つのランチョンセミナー、8 つの一般演題セッション（40 演題）、4 つのポスターセッション（23 演題）、医療機器ハンズオンおよびワークショップが開催されました。

メイン講演の一部を紹介しますと、国際協力機構（JICA）が世界各地で展開している日本流質管理の中低所得国医療への応用の歴史や実践の情報提供や、COVID-19 パンデミック禍でのワクチン開発・製造・流通という一大事業の裏側を製薬企業担当者から、そして次の危機に備える体制の準備状況について厚生労働省担当者から講演いただくなど、国際的な視点からの興味深い発表がありました。一方、明日からの安全な医療実践につながる、多職種連携、医療安全教育、薬剤安全、医療 DX、身体抑制最小化など今注目のトピックに関するシンポジウムでは、どの会場でも活発な質疑がなされました。本学会ならではの企画として『P-1 グランプリ！：患者にとって安全な CV ポートとは？あなたが評価してください。』開催されました。患者さんの診療を支える医療機器について、医療安全にフォーカスし比較できるような製品説明を聞いて選びたいという現場の医療者の思いを具体化すべく、某テレビ番組仕立てで、メーカー 6 社の担当者からの説明を聞き、参加者が評価しました。ランチョンセミナーながら立ち見が多く出るほどとなりました。プログラムのオンデマンド配信の要望に予算の関係上、お答えできなかったことが悔やまれます。

本大会の開催にあたり、ご協力いただいた多くの企業の皆様、数々の無理難題を解決して下さった（株）Memento の皆様、そして多くの学生やスタッフの皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。約 1 年間の準備期間をともに走りぬいて下さった共同総会長の近本亮先生（熊本大学病院副院長教授）、田仲浩平先生（東京工科大学教授）、副総会長の伊東弘樹先生（大分大学医学部附属病院副院長教授）、松田晋也先生（東京済生会向島病院医療安全管理室）、そして三浦昌子先生（愛知県看護協会会長）の頼もしい仲間たちが、頼りない総会長を叱咤激励して大会を成功に導いて下さったことに、改めて感謝いたします。

第 11 回日本医療安全学会学術総会 共同総会長  
熊本大学病院 医療の質・安全管理部 部長  
近本 亮

2025 年 3 月 15 日（土）・16 日（日）、早春の名古屋にて第 11 回日本医療安全学会学術総会が開催されました。安田あゆ子代表総会長の下、大磯義一郎理事長、共同総会長の田仲浩平先生、副総会長の伊東弘樹先生、松田晋也先生、三浦昌子先生とともに本学術集会の企画運営に関わらせていただきました。準備期間中は WEB 会議にて、私たちの理念を示しつつも参加者の皆様のお役に立てるような学術集会にすべく議論を重ねました。今回のテーマは「Think globally, Act locally. 改善しつづける安全な医療システムへ」といたしました。近年、我が国の医療が直面する問題は、新興感染症によるパンデミック、世界情勢の変化による医薬品、医療機器原料の供給不足、輸送網の破綻、我が国の経済状況と診療報酬改定への対応など複雑化・国際化していることから、代表総会長が掲げたものです。今回の学術集会では、そのテーマに沿って多くのプログラムが企画されました。メイン講演は 13 を数え、世界における患者安全、サイバーリスク、COVID19 ワクチン流通問題など、“global”な視点からのテーマや、配薬インシデントゼロ化、身体的拘束最小化、外来化学療法における看護師の適正配置、多職種連携、タスクシフト／シェアなど、日頃からわが国の多くの医療機関で懸案事項である課題を取り上げ“locally”に議論を展開しました。

これまでの学術集会ではなかった試みとして、「患者の視点を取り入れた医療安全研修（patient journey mapping）を体験してみよう」というワークショップを企画しました。いわゆる参加型の教育プログラムです。群馬大学医学部附属病院医療の質・安全管理部の田中和美教授にファシリテーターをお願いし、多くの参加をいただきました。Patient journey mapping は入院治療を行う中での潜在的なリスクを治療の流れに沿って多職種で共有するもので、これにより職種間の相互理解が深まり、学生や研修医、新人職員の安全教育に大変効果的であると感じました。

また、2 日目の昼食の時間を利用して「P-1 グランプリ；患者にとって安全な CV ポートとは？」を企画しました。化学療法で使用する中心静脈ポートを扱っている企業の方にご協力いただき、営業担当者からの魅力的なプレゼンを評価するという企画で、製品の優劣を競うものではありません。多くの方が参加され会場は大盛況でした。今後、本学術集会の目玉企画として定着していくのではないかと感じました。

2 日間の開催を通して多くの参加者にご来場いただき、様々な企画で演者の皆様にご尽力いただいたことで第 11 回日本医療安全学会学術集会は成功裡に終えることができたと感じています。本学会の開催にご協力・ご支援いただいた関連企業の皆様、当方の準備の遅れをカバーすべく適宜対応していただいた（株）Memento の皆様、学会事務局スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。

東京工科大学 片柳研究所 デジタルヘルスイノベーションセンター  
センター長／教授  
田仲 浩平

2025年3月15日・16日、名古屋・ウイנקあいちにて「第11回日本医療安全学会学術総会」を開催し、528名の皆様にご参加を賜りました。盛会裏の終了は、安田あゆ子代表総会長、近本亮先生ら実行委員会の多大なる尽力、そして何より、会員各位の学術的研鑽への熱意によるものと、ここに深甚なる謝意を表します。テーマ「Think globally, Act locally」のもとでの対話は、医療安全の新たな地平を切り拓く確かな一歩となりました。

振り返れば、本学会では第2回大会より情報技術の応用を、第7回からはサイバーセキュリティを提起してまいりました。2022年5月の「医療DX 令和ビジョン2030」提言、2023年4月施行の改正医療法施行規則による義務化を経て、これらは今や喫緊の課題です。

本大会では、医療安全が構造的な転換点を迎えている事実が浮き彫りになりました。現代医療は、AIなどデジタル技術と融合することで高度化し、医療者をデジタル技術で支援する環境が整いつつあります。しかし、それは同時に新たなリスクとの対峙を意味します。これまでの医療安全は、主に医療従事者起因の「内部からのエラー」防止が主眼でした。しかし今後は、サイバー攻撃や災害といった、医療者が経験したことのない「外部からの侵襲」への防御を、既存の対策と高度に融合させねばなりません。情報システムの防衛は、単なる管理業務ではなく、患者の命と財産を守る行為そのものだからです。

それゆえに今後は、予期せぬ外部からの衝撃に対し、しなやかに適応し回復する「レジリエンス」の強化こそが、新時代の医療安全の中核を担います。

「どんなに小さな改善でも、それが積み重なれば大きな変革をもたらす」。本会で共有された新たな安全観が、各施設の「Locally」な行動として実装され、強靱な医療体制構築に寄与することを祈念いたします。

## 編集後記

本会のニュースレターは、2021年の新体制発足時より電子版として発行されてきました。近年、他の医療系学会においても、紙媒体から電子媒体への移行が進み、学術情報を伝達、共有する形も大きく変化してきました。医療安全の分野では、経験や事例から学び、それを共有することが安全文化の醸成につながります。また、医療は多職種による協働の上に成り立っており、職種や施設を越えた知見の共有がこれまで以上に重要になっています。電子媒体は、そのような学びの循環を支える一つの基盤であり、今後も、ニュースレターが、会員の皆様の学びと対話をつなぐ場として活用されるよう発行できればと考えます。

広報委員会では、皆様からの投稿、情報提供をお待ちしております。今後とも、ご支援下さるようお願い申し上げます。(K.M.)

広報委員会（2026年3月現在）

秋山 美紀

石井 宣大

伊藤 雅美

荒神 裕之

柴田 正幸

永尾 るみ子

永山 正雄

新田 雅彦

堀田 まゆみ

水本 一弘

道丸 摩耶

吉田 和弘

依田 明久

渡邊 清高（五十音順）